

○2番（帰山寿憲君） 2番、帰山です。

ただいま議長より質問の許可をいただきましたので、勝山市の公園における植樹、防災施設の整備、市内バス路線の3項目について伺います。

最初に、勝山市の公園における植樹について伺います。

現在、勝山市では、景観計画の制定が進められています。この中で、眺望景観の維持・保全についても計画されています。その詳細の中では、さまざまな視点からの検討が行われていますが、長山公園、かつやま恐竜の森、あさひ公園等の公園の景観も含まれると考えられます。これらの公園は、現在さまざまな樹木により緑化されており、代表的な樹木は桜かと思います。

さて、近年、日本の代名詞とも言える桜の代表格、ソメイヨシノの衰えが各地で聞かれるようになりました。その寿命については、さまざまな見解がありますが、現実には老木化しているのは間違いのないようです。一般に長寿命と言われるエドヒガンザクラやしだれ桜に対して、ソメイヨシノはエドヒガンザクラ系品種とオオシマザクラの交配により生まれたにもかかわらず、種子ではふえず、接ぎ木等による育成のため60年前後の寿命と言われ、耐病性にも劣るようです。このためか市内においても、少なくとも長山公園では樹勢の状態がよくない状況です。

先に樹勢に懸念があった弁天桜の状況調査が行われ、対策が実施されていますが、同様の調査を市内の公園に対して行ったことがあるのでしょうか。現在の市内公園の樹木の状況についての現状と勝山市の認識を伺いたいと思います。

さて、勝山市では、ことし予定されたかつやま恐竜の森公園における植樹が、安全性確保の観点から来年に延期となりましたが、法恩寺山有料道路沿いではアボットの森として植樹が行われましたし、過去にはN T T等の協力により林道法恩寺線沿いで植樹が実施されるなど広葉樹の植樹が進められています。残念ながら、まだ実をつけるには至らなかったため、クマの冬眠準備には間に合わず、長尾山まで食事に来たため恐竜マラソン大会は中止となりましたけれども。

また、南大橋の上下流や長山公園においても桜が植樹されるなど、緑化の環境整備はさまざまな形で進められているようです。そこで、近年の市内公園での植樹の状況及び場所の選定等、その経緯を伺います。

先日、新体育館建設に関して、山口県下松市を視察する機会がありました。同市は、笑いと花と童謡の町を掲げており、市民参加により既に2,500本のしだれ桜の植樹を行い、今後も市民の約1割、5,500本を目標として事業を展開しており、市内における景観の形成、観光等や市民のまちづくりの一翼を担っています。勝山市でも、桜・松枯れ対策や、広葉樹を含めて植樹事業は必要と考えますが、今後の公園等の植樹についてどのような方針をお持ちでしょうか。

私見ですが、長山公園などは国道や市街地などからもよく見え、寿命の長いしだれ桜や華やかな八重桜、そして桃、梅、アジサイ、ツツジや芝桜、もみじなどを計画的に植栽すれば、四季を通じて楽しめる公園にできると思います。以上をお伺いいたします。

次に、防災施設の整備について伺います。

防災無線、防災マップも整備され、勝山市の防災対策もよく整備されてきました。防災無線は、今回のクマ出没に対しても、少なくとも市内近辺においては音響等の不評はあったものの、有効であることが確認されています。ただ、いまだに屋外子局が25局にとどまっており届かない地域が多く、また今後の設置予定が未定なことは極めて残念です。

さて、今回は災害時の防災施設、特に避難施設や管理機能について伺います。

勝山市地域防災計画によると、第3章、災害応急対策計画の中で、勝山市災害対策本部は勝山市市庁舎もしくは教育会館に置くとされています。また避難場所については、同計画の中の避難所開設運営マニュアルにおいて19カ所が指定されており、その他予備施設として19カ所が定められています。

まず、災害対策本部について予備施設が教育会館とされていますが、市庁舎と教育会館、市民会館は交通インフラはもちろん、通信インフラの基盤が共通であり、予備施設としては極めて脆弱であり不適当ではないでしょうか。

また、避難所について、多くは小・中学校の体育館であり、上下水道などの展開は容易とは思えませんし、復旧時には小・中学校の再開とともに明け渡しが要求されます。この2点について、見解と対策をお伺いいたします。

さらに、炊き出し可能施設としては小・中学校を中心に24カ所が指定されており、避難所と共通するのは14カ所あります。確かに小学校は給食施設があるため、ある程度の炊き出しは可能と思いますが、学校再開とともに使用は困難となります。

また、勝山市の災害対策用備蓄は4カ所で、乾パンとビスケット各500食程度が備蓄されているようです。しかしながら、仮設トイレは備蓄されておりません。さらには、大型こんろ等の火器類も備蓄されていないようですし、発電機等も2台程度です。備蓄の内容について今後見直す計画がないかを伺います。

また、災害対策本部とは別に、ボランティアセンターや避難者の把握を行う施設などの中央管理センターの機能も必要とされると思います。人口減少が進んだといえども、災害時には避難者は1,000人の単位も考えられます。これらを考慮すると、ボランティアセンターや避難者情報等の管理機能を持ち、災害用設備の備蓄基地、ガスや給排水の供給設備を持つ総合避難施設を、今後防災拠点として整備する必要があるのではないのでしょうか。以上をお伺いいたします。

最後に、市内バス路線について伺います。

現在、市内のバス路線は、広域路線を含めると12路線が運行されており、京福バスの勝山大野線と市内観光バス、デマンド方式及び乗下車人数を把握できなかった北郷線を除く常時運行便数は45便であり、その1日当たりの乗車定員の総数は1,322人となっています。

一方、乗車人数は年間合計で8万2,764人であり、1日当たりの平均乗車人数は約227人となり、乗車率は17%となります。この数値は、デマンド運行の便数15便を運行しないものとしての計算です。

また、勝山市が負担する運行委託料は、京福バスの勝山大野線と北郷線を除くと総額で5,853万4,701円であり、1人当たり単価が630円となります。計算から除外した勝山大野線、北郷線の補助金、委託料合計は1,721万2,823円であり、委託料、補助金総額は約7,575万円となります。これだけの予算を投入しているにもかかわらず、相変わらず不便だとの声がなくなるのはなぜでしょうか。

社会保険病院の通院患者さんの中には、診察は終わったが帰宅する手段がないので、家族の昼休みに迎えに来てもらうという方や、バスの時間が合わなくて、バス時間まで売店で待っている方もいるようです。社会保険病院の現状以上の病院機能存続は、勝山市にとって必須であり、当市としても直接的な支援はもちろん、バス運行などにより利便性の向上を図り、側面からも十分な支援が必要だと思えます。

このような状況を市は把握しているのかどうかをまず伺います。

また、路線開設から現在までに、何度かの路線変更、ダイヤ変更を行っていますが、過去において、利用者もしくは市民に対してアンケートを実施し、路線やダイヤに反映したことがあるのでしょうか。その設置設定根拠と現在の状況に対する認識を伺います。

ここで、地域交通の確保の点から、公費投入に異を唱えるつもりはありませんが、その効率はお世辞にもよいとは言えません。乗車率の向上に対し、これまでどのような対策を行ってきたのでしょうか。現状に対しての認識をお伺いいたします。今後早急な対策を図り、乗車率の向上を目指すべきではないのでしょうか。

さて、ことしも入学試験や推薦入学などの話題が新聞紙上等で見かける季節になりました。福井県は先年、勝山南高校と大野東高校を統合し、総合産業高校として明成高校を設置し、勝山南高校に養護学校の設置を決定しています。そして来年度以降、高校進学者は、勝山市内では勝山高校の選択肢のみとなります。当然、市外への交通網整備を図らねばならないわけですが、市としてどのような方針をお持ちでしょうか。

実は、この部分は、ほぼ昨年度の質問と同じであり焼き直しにすぎません。1年を経過した後、同じ質問をすることは残念でなりません。

まず、平成22年度の奥越地域の高校の定員は、勝山高校が152人、勝山南高校が90人、大野高校が193人、そして大野東高校が121人であり、合計556人でした。そして、中学校卒業生は両市合計で629人であり、勝山市単独では定員242人に対して259人でした。高校進学率がほぼ100%であることを考えると、定員上からは、少なくとも15人前後が勝山市外へ通学をせざるを得ない状況であり、実際には他市町からの流入等により約80人程度が市外へ通っているようです。

奥越全体では、平成23年度は勝山高校が171人、明成高校が151人、大野高校が185人の合計507人の定員に対して卒業生が590人であり、勝山市単独の定員では171人に対して卒業生は230人となります。したがって、約60人は市外へ通学しなければならない状況となります。前年の状況を加味すると、100人の大台の可能性もあります。

当然、大野方面に通学する生徒は増加するはずですが、現在、勝山市内から通学に使用できるバスは、大野東高校前7時55分の1便のみです。勝山駅前は7時38分発です。そして、この間の運賃は片道450円であり、通学定期は1カ月で1万3,460円となります。これに対して、現在のところ一切の補助がない状況です。対策を考えるべきと考えます。

また、今後増加すると思われる通学者数に対し、朝一便で対応できない可能性があります。帰宅時も、3時以降は時間当たり最低でも一便は必要かと思えます。今後の方針を伺います。

以上、まずお伺いいたします。

○議長（清水清蔵君） 山岸市長。

（市長 山岸正裕君 登壇）

○市長（山岸正裕君） 防災施設の整備についてお答えいたします。

勝山市では大規模な災害、特に地震時に対応するため、公共施設の耐震化を図ることを目的とした勝山市建築物耐震改修計画を定め、施設の耐震化を順次行っております。その中で、災害時の拠点となり勝山市災害対策本部を設置する市役所庁舎や、各地域の避難場所となり得る体育館の避難施設については、優先的に耐震化を行ってきたところです。

お尋ねの災害対策本部の予備の施設につきましては、国や県との通信手段である防災ファクスや防災行政無線がある市役所庁舎に近接する施設を指定をしておりますが、市庁舎近隣の全体が被災した場合を想定しますと、御指摘についての危惧は十分予想されるところであります。

また、全市にわたる災害を想定した場合に、避難所が公共施設だけで十分なのかどうかや復旧段階での施設利用の課題もあることから、今後は民間施設との災害応援協定を締結するなどの対応を進めていく必要があると考えます。

なお、災害用の備蓄に関しましても、市ですべて必要数を確保することは困難でありますので、近隣の県、市町、関連します協会や組合などの団体との災害応援協定の中で対応していくほか、市独自でも御指摘の仮設トイレ等も検討する中で、備蓄に必要なものにつきましては順次計画的に確保してまいりたいと存じます。

また、これらの諸課題の対応に関して、防災センターや総合的な避難施設の必要性もかんがみ、建設予定の新体育館に災害時避難施設機能を兼ね備えることも検討したいと考えております。

○議長（清水清蔵君） 竹内都市政策課長。

（都市政策課長 竹内一介君 登壇）

○都市政策課長（竹内一介君） 公園等の樹木の現状についてお答えいたします。

勝山市には都市公園が32カ所あり、その主なものとして、あさひ公園、荒土公園、長山公園、中央公園、滝波公園、長尾山総合公園などがあります。これらの公園におきましては、常緑樹が約370本、落葉樹が約2,090本植樹されております。その中でも桜の木が最も多く、約600本植樹され、品種は主にソメイヨシノであり、花見シーズンはもちろんのこと、緑の中の散策路として多くの市民に親しまれております。

また、桜の名勝で知られる弁天桜であります。老木が多く、その長寿命化対策が課題であります。市では昨年、病虫害調査を行い、本年その結果に基づき弁天桜樹勢回復処置作業を施したところであります。被害状況は、総数456本のうちテング巢病にかかったものが96本でありました。

一方、長山公園の桜であります。総数約210本であり、品種はソメイヨシノが主で、樹齢40年以上の老木が多く、弁天桜と同様、テング巢病の発生が多く見られたことから、市では職員により被害木の枝の切り落とし及び防腐処理を実施したところであります。

今後も、公園内の桜の維持管理につきましては、関係機関の協力を得て病虫害被害の実態調査を継続して行い、順次対策を立ててまいりたいと考えております。

次に、現在の植樹の状況についてお答えいたします。

これまで公園の緑化を目的として、市内の多くの団体の御寄附や御厚意により、長尾山総合公園や長山公園におきまして植樹が行われてまいりました。長尾山総合公園においては、公園開設時には、ハナミズキ、ソメイヨシノなどが植栽され、平成14年からは現在まで、勝山ロータリークラブ、勝山ライオンズクラブなどの団体からの御寄附により、クヌギ、ブナなどの在来種を中心とした約820本の植樹がなされてまいりました。

本年度におきましては、村岡小学校、中部中学校の児童生徒によるヤマモミジの植栽やその他多くの団体により、ミズナラ、ソメイヨシノなど合わせて225本の植樹が行われました。

一方、長山公園におきましては、平成19年から20年にかけて、八重桜、ソメイヨシノなど約50本が植樹されております。植樹の場所につきましては、公園修景を目的として散策路沿いが中心となり

ますが、近年、松枯れに遭った林地内の自然林の復元を目的とした場所も選定しております。

最後に、今後の植樹の方法についてお答えいたします。

林地内におきましては、自然林の復元を目的とした植樹を行い、樹種は自然植生に合った選定を行う方針であります。また、新たな植樹の際には、四季折々の景色が楽しめるように検討してまいります。

市では今後、公園施設の長寿命化計画の策定に取り組むよう検討しておりますが、植樹につきましても同様な計画の策定に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（清水清蔵君） 平沢生活環境課長。

（生活環境課長 平沢浩一郎君 登壇）

○生活環境課長（平沢浩一郎君） 市内バス路線についてお答えをいたします。

勝山市のバス体系は、勝山市と大野市を結ぶ広域路線、市街地を循環するコミュニティーバス2路線、そして勝山駅を起点として各地区に路線が広がっている市内バスで構成されています。どの路線も基本的に毎日運行し、路線ごとに違いはあるものの、それぞれ朝、昼、夕の便を確保しております。

社会保険病院に通院する人が、診察の終了時間とバスの時間が合わないために不便な場合もあるとお聞きしておりますが、現在、社会保険病院をバスターミナルの一つとして位置づけ、ほとんどのバスを乗り入れておりますので、乗り継ぎ利用も含め、バスの時間に合わせて御利用いただくようお願いしている状況にあります。また、バス路線の決定や変更、ダイヤ改正につきましては、区長会を通して地域や利用者の要望をお聞きし、地域公共交通会議の協議を経て対応しているところであります。

利用者や市民を対象としたバス利用に関するアンケート調査は、平成16年に乗り合いタクシー化を行った地域を対象に実施し、その結果をそれ以降のバスの運行に反映いたしました。

バスの運行につきましては、既にバスを利用している人や利用したいと思っている方々の意見を反映することが基本であると考えております。今後とも区長会等における地域の声をお聞きするとともに、平成23年度には利用者に対する聞き取り調査や市民に対するアンケートを実施し、利便性向上と費用対効果についても検証する中で、将来を見据えた勝山市地域公共交通計画の策定に着手したいと考えております。

また、高校の再編に伴う大野方面へのバスの増便につきましては、再編によって勝山市の生徒が大きな影響を受けることから、ことしの県への要望事項の一つとして掲げ、知事及び担当部局に強く要望してきたところであります。その結果、現在、朝に大野方面に向かうバス1便に加え、既に運行している北郷線に接続する形で1便増便し、2便運行する方向で、現在、福井県及び大野市と協議を進めているところであります。帰宅する時間帯のバスにつきましては、現在の利用状況から見ますと乗車人数に余裕がありますので、本数をふやさずダイヤ調整をする中で利便性を確保できるよう協議してまいります。

また、今後の利用状況を見きわめ、必要な対応を検討したいと考えております。

○議長（清水清蔵君） 蓬生教育総務課長。

（教育総務課長 蓬生慎治君 登壇）

○教育総務課長（蓬生慎治君） 今後の奥越地域の高校生への通学対策についてお答えします。

平成23年4月より、福井県立奥越明成高等学校が開校されるに当たり、従来、勝山市内の高等学校に通っていた生徒の中で、大野まで通学する生徒がふえてくることとなります。

現在、勝山駅から大野東高校までバス通学している者は、1カ月の通学定期が1万3,460円となっており、全額個人負担となっております。通学定期への補助については、現状では、高校生に対する通

学補助は実施しておらず、高校再編により大野市へ通学する者のみに補助することは、福井市に通学している者、市内でもバス通学している者に対しても補助をしていない現状では、公平性の観点から実施は困難であろうと考えております。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） では、三つの質問に対しまして、それぞれ個別に順を追って、若干の追加質問をさせていただきます。

まず、防災施設の整備に関して、一つお伺いいたします。

備蓄についてですけれども、当市の食糧備蓄、防災計画上では使用期限がすべて平成23年11月になっております。今年度より更新が始まっていますが、来年度中に完全に更新できるのか、またどのように更新しているのか状況をお伺いいたします。お願いいたします。

○議長（清水清蔵君） 山根総務課長。

（総務課長 山根敏博君 登壇）

○総務課長（山根敏博君） 再質問にお答えします。

現在、食糧につきましては、乾パン、ビスケットを備蓄しておりますが、それぞれ保存期間は5年とされておりますので、その保存期間を考慮する中で順次更新をしております。

また、更新いたしましたビスケット、乾パンにつきましては、各種防災訓練、研修会等で参加された市民にお配りし、啓発活動の一環として活用をしております。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） 私も一度乾パンを食べたことがありますけれども、まあ味はあんなもんなんでしょうね。総合体育館建設に向けて幾つか私ども視察してまいりましたけれども、中には炊き出し用のガス配管、それから仮設トイレ用の配管とか、専用の上下水道配管を備えた避難所施設を備えた体育館というのが非常に多く建設されています。

今後、勝山市もそのような、もし新体育館を建設するんでしたら、ぜひとも参考にして検討していただきたいと思います。

それでは次に、市内の公園の状況につきまして、長山公園なんかでもしだれ桜が、私ぱっと見てきたときに、2本、これは多分ロータリーが植樹されたものだと思うんですけれども、植樹されていました。先ほど述べましたように、しだれ桜というのは非常に寿命が長いんですよね。手入れの方法や接ぎ木の台木の種類や土壌の状態にもよるようなんですけれども、ソメイヨシノの国内最長寿は青森県の弘前公園にある桜のようで、120年たっているようです。

一方、植樹単価は非常に高いんですけれども、しだれ桜は国内各地において300年を超す古木というのは多数見受けられますし、中には1500年という桜もあります。

さきの下松市なんですけれども、市民から1本当たりに対して、実は5万円の資金援助を募りまして、しだれ桜の植樹を進めていると。勝山市でも同様な手法がとれないものかどうか、検討したことがあるのかないかお伺いいたします。

○議長（清水清蔵君） 竹内都市政策課長。

（都市政策課長 竹内一介君 登壇）

○都市政策課長（竹内一介君） ただいまの桜の長寿命化を図る対策についての質問にお答えしたいと思います。

昨年から弁天桜を最も大切な桜として、まず初めての病虫害調査を行い、多くの研究をしましてまいっております。その成果をもとに、今後、ほかの桜につきましても対策を行っていく計画を立て、その結果に基づきさらに長寿命化を図る実施体制を整えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） それでは次に、長山公園なんですけれども、長山公園は勝山市をどちらから来てもまず目に飛び込んでくる公園なんですけれども、非常に景観的に現在見苦しい状況ではないかなと思うんです。先ほど見ると、職員の方がテング巢病なんかの対策を一生懸命なさっているということなんですけれども、もう少し具体的な施策というのはないでしょうか。

以上、これ、公園としては最後の質問にしたいんですけれども、お答えいただけますでしょうか。

○議長（清水清蔵君） 松村副市長。

（副市長 松村誠一君 登壇）

○副市長（松村誠一君） 再質問をいただきました長山公園の状況ですけれども、私どもも議員と同じような認識をいたしております。市有地以外に民地の部分もかなり松枯れなどがございますので、これはまた地権者の方と。

昭和町2丁目との協定の中でもそういった方向性でお話をしておりまして、今後地権者の理解を得ながら、少しずつ対策を講じてまいりたいと考えております。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） 公園は、いつでも清潔感を持って、市民や観光客を問わず憩いや遊びの場として提供されるべきと考えています。今後もよい維持管理方法や緑化もしくは植樹に関する条例などの制定も検討していただきたいと思っております。

それでは最後に、市内バス路線について、再度伺いたいと思っております。

ことし、コミュニティーバス等の運行委託に対しまして契約更新を行ったと思っておりますが、お答えからは平成16年のアンケートをとったということで、十分な評価を行ってなかったように感じます。従来路線のまま公募しなければいけないような制限があったのかどうか、まず最初にお伺いいたします。

次に、乗客に対する調査検討がほとんどなされていないという状況は全く遺憾と言えます。ここに越前市が乗客に行ったアンケートがあったんですけれども、ちょっと結果を見てきました。

その調査結果の中で、乗客の8割が70歳以上、ほとんどが女性。また、8割が免許を持っていないものの、半数以上が家族と同居だったという結果が出ています。利用目的は買い物と通院がともに約3割、利用回数は5割が週に数回という結果が出ています。勝山市では、通院が若干多くなるとおもわれるんですけれども、バス路線が郊外を主体としているようですので、参考にはなると思っております。

確かに考えてみれば、通常は買い物も通院も週二、三回がほとんどなんです。

そこで、さまざまな状況が考えられるものの、路線変更などの工夫を行って隔日や曜日を指定した運行を行うと、1日の便数をふやすことが可能ではないかなと考えられるんです。できないならば1台の

増車を行えば相当に利便性が確保されると思います。

以上2点、まずお伺いしたいと思います。

○議長（清水清蔵君） 平沢生活環境課長。

（生活環境課長 平沢浩一郎君 登壇）

○生活環境課長（平沢浩一郎君） ただいま御質問いただきました点について、答弁をさせていただきます。

これまで十分な分析がされてこなかったのではないかとというような御指摘でございますが、先ほど御答弁申し上げましたように、これまで路線のコース、あるいは本数、時間帯、それらすべてにつきまして地域の区長会を通じましていろいろな要望、あるいは現状等を踏まえる中で決定をしてきたということでございます。それも国のほうで一定の指針で定められております勝山市地域公共交通会議の中で協議をいただき、進めてきたというのが現状でございます。

ただ、さらに細部のニーズ調査というのが必要であるというふうに考えておりますので、来年度実施しますアンケート調査、ニーズ調査によりまして、より利用者にとって利用しやすいバスの運行に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） かしこまりました。

その他、もう一つ、後ほど一緒に御回答で結構なんですけれども、社会保険病院が単独で、自分自身でバスを運行するということが法律上可能なのか、他市町でそういうことが実行されていないかどうか、まずお伺いしたいと思います。もしそれができないならば、勝山市がそれに支援することが可能かどうか、その辺もあわせてお答えいただきたいと思います。

それでは次に、高校生の通学補助に関してお伺いいたします。

相当に難しいという御返事でしたけれども、高校の授業料も今年度より無償化されています。私立高校の授業料に対しても補助金が出ています。現に他市町村では補助している自治体もありますし、義務教育ではない県立高校だから補助ができないとは、かなり納得しがたい状況です。

現在、えちぜん鉄道ですけれども、1カ月1万7,420円であるものの、1カ月定期は5%、3カ月以上は10%の補助金が別の名目で支給されています。これは利用する通学定期、通勤定期を合わせてですけれども、補助されていないわけではないということですね、福井に通う人に対しては。全額補助でなくても、ともに地方交通の一端を担う路線でありますし、何らかの措置が必要だと思います。

さきに触れたんですけれども越前町、若干です、ほんの1,000円なんですけれども支給していますし、県外では万単位とか50%の補助率を出しているところもあります。一度御検討をいただけないか、再度お伺いいたします。

○議長（清水清蔵君） 平沢生活環境課長。

（生活環境課長 平沢浩一郎君 登壇）

○生活環境課長（平沢浩一郎君） ただいま御質問のございました、病院が通院用のバスを運行できないのかということに対する回答をさせていただきます。

現在、既に福井大学の医学部の病院へのアクセスとして、福井の事業者が行っております乗り合いタクシー「げんき君」、これは勝山市も走っておりますが、このバスにつきましては福井大学病院が補助を

行いながら運行しておりますし、このように病院が事業者に委託して運賃収入を伴うバス運行をすることも可能でございます。また、患者限定の無料送迎バスを運行することも可能であります。

ただ、実際に病院がバスを運行するに当たりますとは、病院の費用負担や市内のバス路線との競合等の課題があるというふうに考えております。

○議長（清水清蔵君） 蓬生教育総務課長。

（教育総務課長 蓬生慎治君 登壇）

○教育総務課長（蓬生慎治君） 再質問にお答えいたします。

高校授業料の無料化が実施されたこと、またえちぜん鉄道につきましても補助しているというようなことで、高校生に対する通学定期の補助というようなことが考えられないかということでございます。

まず、えちぜん鉄道の場合につきましては、利用促進のための事業というようなことで若干趣旨が違うかというようなところがございます。また、高校生に対する通学費の補助につきましては、高校再編による保護者への負担増になる部分につきましては、県に対しても今後前向きに対応していただくよう要請していきたいと考えております。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） なかなか議論がかみ合わないんですけども、そもそも勝山駅前から大野東高校までが1万3,000円ほどかかると。勝山駅から福井までが1万7,000円で行けると。なぜこんなことが起きているかといったら、そもそも市内バスの運賃に、勝山市内なら最高200円、ところが京福バスの路線を使うと300円、400円かかると。市内バスの運賃にこれだけの差額があることを放置してきたことにそもそも問題があるんじゃないかなど。回数券前売り方式などの解決方法は幾らでもあったはずなんですけれども、なぜこの対策を今までやってこなかったのかということをお伺いしたいと思います。お願いいたします。

○議長（清水清蔵君） 平沢生活環境課長。

（生活環境課長 平沢浩一郎君 登壇）

○生活環境課長（平沢浩一郎君） ただいまの御質問は、広域路線において距離によって計算されることによりまして、ほかの市内のバス路線の100円、200円と違って負担が大きくなっているというような現状についての御指摘かと思っております。

そのことにつきましては、私も市内路線も含めましたバス交通体系の中での一つの課題であるというふうに考えておりますし、実は今回の高校の再編によります県との協議の中でも、大野市との間で高校生の通学費負担を含めた軽減の一つの方策として、定額の導入についても話題になったところであります。

ただ、広域路線につきましては、県が関係していることもございまして、県のほうからせんだって、ほかの広域路線の関係もあるので、運賃を下げるということについては今回は待つてほしいというような御回答を得ているところでありますが、ただ議員御指摘のような視点がございまして、今後とも県及び大野市とも協議する中で検討を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） 何度繰り返しても同じような状況なので、これ以上は話しませんが、京

福バスの乗車支援策というのは、京福バス運行を考えると必要だと思います。そういう意味で、えちぜん鉄道は運営支援ということで補助金を出して、こちらには出さないということは何となく納得がいかないものですので、今後何かとあわせて、高校生の通学支援と運行支援、それから地域住民の運賃負担の公平性を求めまして、対策をお願いいたしまして質問を終わります。